

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2020年6月4日(04.06.2020)



(10) 国際公開番号

WO 2020/110607 A1

(51) 国際特許分類:

A61Q 19/10 (2006.01) *C11D 3/20* (2006.01)
C11D 1/75 (2006.01) *A61K 8/41* (2006.01)
C11D 1/90 (2006.01)

LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS,
SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM,
GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

(21) 国際出願番号: PCT/JP2019/043086

添付公開書類:

(22) 国際出願日: 2019年11月1日(01.11.2019)

一 国際調査報告 (条約第21条(3))

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
特願 2018-220595 2018年11月26日(26.11.2018) JP

(71) 出願人: 株式会社 資生堂 (SHISEIDO
COMPANY, LTD.) [JP/JP]; 〒1040061 東京都
中央区銀座7丁目5番5号 Tokyo (JP).

(72) 発明者: 苅谷 智行 (KARIYA Tomohiko);
〒1040061 東京都中央区銀座7丁目5番5
号 株式会社資生堂内 Tokyo (JP).

(74) 代理人: 岩橋 祐司 (IWAHASHI Yuji); 〒2220033
神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目5
番地15 Kanagawa (JP).

(81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保
護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ,
BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH,
CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO,
DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT,
HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, JO, JP, KE, KG, KH,
KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY,
MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ,
NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT,
QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL,
SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA,
UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保
護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS,
MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM,
ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ,
TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ,
DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT,

(54) Title: DETERGENT COMPOSITION

(54) 発明の名称: 洗浄剤組成物

(57) Abstract: This detergent composition is a detergent composition for dye that is for removing dye from the skin. This detergent composition contains trialkylamine oxide.

(57) 要約: 洗浄剤組成物は、皮膚から染料を落とすための染料用洗浄剤組成物である。洗浄剤組成物は、トリアルキルアミンオキシドを含有する。



WO 2020/110607 A1

明 細 書

発明の名称：洗淨剤組成物

関連出願

[0001] 本発明は、日本国特許出願：特願２０１８－２２０５９５号（２０１８年１１月２６日出願）の優先権主張に基づくものであり、同出願の全記載内容は引用をもって本書に組み込み記載されているものとする。

技術分野

[0002] 本開示は、染料を落とすための洗淨剤組成物に関する。例えば、本開示は、皮膚から染料を落とすための染料用洗淨剤組成物に関する。

背景技術

[0003] 化粧品成分には、水性成分と油性成分とが存在する。顔に塗布した化粧料を洗淨する場合に、水性化粧料用の洗淨剤及び油性化粧料用の洗淨剤それぞれで洗淨すれば、水性成分も油性成分も洗淨することができる。しかしながら、洗淨行為を少なくとも２回行うことは面倒である。そこで、例えば、特許文献１には、水性及び油性の汚れを落とすためのクレンジング用化粧料が開示されている。

[0004] 特許文献１に記載のクレンジング用の化粧料は、Ｎ－ヤシ油脂肪酸アシルグリシンカリウム塩と、ラウリルジメチルアミノキシド又はステアリルジメチルアミノキシドと、を含有する。

先行技術文献

特許文献

[0005] 特許文献１：特開平１１－１９９４３７号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0006] 以下の分析は、本開示の観点から与えられる。

[0007] 染料を配合した化粧料が知られている。本開示において、以下、このような化粧料を「ティント化粧料」と称する。ティント化粧料としては、例えば

、リップティント又はティントリップと呼ばれる、色落ちを抑制した唇用化粧料が存在する。ティント化粧料においては、唇等の皮膚の角質層まで染料を浸透させて色付けすることによって色落ちが抑制されている。しかしながら、染料が角質層まで浸透しているため、おそらくは染料とタンパク質とが化学的に結合しているため、肌上に塗布された化粧料を洗浄するための通常の洗浄料ではティント化粧料を十分に除去することは困難である。このため、皮膚外観におけるティント化粧料の色をより薄くする、好ましくは、皮膚からティント化粧料の色を完全に落とすためには、ティント化粧料専用の洗浄料が必要となる。

[0008] ティント化粧料における染料としては、通常、酸性染料（陰イオン染料）が使用されている。酸性染料は、皮膚のタンパク質とイオン相互作用により結合していると考えられる。そこで、ティント化粧料用の洗浄剤成分として、例えば、ココアンホジ酢酸 2 Na を配合することが考えられる。しかしながら、ココアンホジ酢酸 2 Na は、肌への刺激性が高いため、肌上に残存するような洗浄は好ましくなく、ティント化粧料洗浄時に水で洗い流すことが必要となる。すなわち、皮膚に対する刺激性の高い成分を配合した洗浄料は、水で洗い流す必要のない、拭き取りのみで化粧料を洗浄可能なリーブオンタイプの洗浄料として使用することはできない。

[0009] 特許文献 1 に記載のクレンジング用の化粧料も、配合されている N-ヤシ油脂肪酸アシルグリシンカリウム塩が肌への刺激性が高いため、リーブオンタイプの洗浄料として使用することはできない。

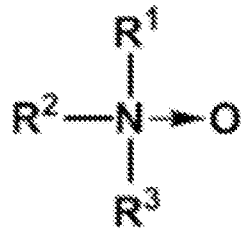
[0010] そこで、ティント化粧料に対して高い洗浄性を有すると共に、かつリーブオンタイプとして使用可能な洗浄料が望まれている。

課題を解決するための手段

[0011] 本開示の第 1 視点によれば、皮膚から染料を落とすための染料用洗浄剤組成物が提供される。洗浄剤組成物は、化 1 に示されるトリアルキルアミンオキシドを含有する。

[0012]

[化1]



[0013] 化1に示す化学式において、 R^1 、 R^2 及び R^3 のうち、いずれか2つは炭素数1～4のアルキル基であり、いずれか1つは炭素数12～21のアルキル基である。

発明の効果

[0014] 本開示の洗浄剤組成物は、ティント化粧料に対して高い洗浄性を有している。

[0015] 本開示の洗浄剤組成物は、リーブオンタイプとして使用することができる。

発明を実施するための形態

[0016] 上記各視点の好ましい形態を以下に記載する。

[0017] 上記第1視点の好ましい形態によれば、染料は酸性染料である。

[0018] 上記第1視点の好ましい形態によれば、トリアルキルアミノオキシドの含有率は組成物の質量に対して0.2質量%～4質量%である。

[0019] 上記第1視点の好ましい形態によれば、洗浄剤組成物は、油相及び水相を有する。油相と水相とが静置状態において主として乳化していない。

[0020] 上記第1視点の好ましい形態によれば、油相の含有率は組成物の質量に対して20質量%～80質量%である。水相の含有率は組成物の質量に対して20質量%～80質量%である。

[0021] 上記第1視点の好ましい形態によれば、水相のpHが4～8である。

[0022] 上記第1視点の好ましい形態によれば、界面活性剤の含有率が組成物の質量に対して0.2質量%以下である。

[0023] 上記第1視点の好ましい形態によれば、洗浄剤組成物は、アルキルベタイン型界面活性剤をさらに含有する。

[0024] 上記第1視点の好ましい形態によれば、洗浄剤組成物は、組成物の質量に対して1質量%～20質量%の水溶性アルコールをさらに含有する。

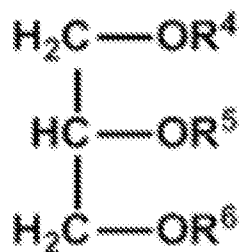
[0025] 上記第1視点の好ましい形態によれば、洗浄剤組成物は、組成物の質量に対して15質量%～50質量%の揮発性油性成分をさらに含有する。

[0026] 上記第1視点の好ましい形態によれば、揮発性油性成分は、炭化水素油、エステル油、及びシリコン油から選択される少なくとも1つである。

[0027] 上記第1視点の好ましい形態によれば、洗浄剤組成物は、組成物の質量に対して0.1質量%～5質量%の塩をさらに含有する。

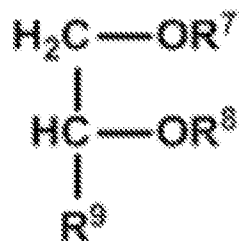
[0028] 上記第1視点の好ましい形態によれば、洗浄剤組成物は、組成物の質量に対して0.05質量%～5質量%のポリオール誘導体を含有する。ポリオール誘導体は、化2に示すグリセリン誘導体及び化3に示すグリコール誘導体のうちの少なくとも一方である。

[0029] [化2]



[0030] 化2に示す化学式において、 R^4 、 R^5 及び R^6 のうち、いずれか1つは炭素数4～15のアルキル基、アルケニル基又はアシル基であり、いずれか2つは水素原子である。

[0031] [化3]



[0032] 化3に示す化学式において、 R^7 及び R^8 のうち、一方は炭素数10～20のアルキル基、アルケニル基又はアシル基であり、他方は水素原子であり、

R⁹は炭素数1～4のアルキル基、アルケニル基、アシル基又は水素原子である。

[0033] 上記第1視点の好ましい形態によれば、グリセリン誘導体がエチルヘキシルグリセリン及びヘキシルグリセリンのうちの少なくとも一方を含む。

[0034] 上記第1視点の好ましい形態によれば、グリコール誘導体がラウリン酸プロピレングリコール、ステアリン酸プロピレングリコール、及びイソステアリン酸プロピレングリコールのうちの少なくとも1つを含む。

[0035] 上記第1視点の好ましい形態によれば、洗浄剤組成物は、化粧品用洗浄剤組成物である。

[0036] 上記第1視点の好ましい形態によれば、洗浄剤組成物は、リーブオンタイプである洗浄剤組成物である。

[0037] 以下の説明において、POEはポリオキシエチレン、POPはポリオキシプロピレンの略記で、POE又はPOPの後ろのカッコ内の数字は当該化合物中におけるPOE基又はPOP基の平均付加モル数を表す。

[0038] 本開示において「実質量」とは、その化合物の添加による作用効果が生じ得る量をいう。

[0039] 本開示の第1実施形態に係る染料用洗浄剤組成物について説明する。第1実施形態に係る染料用洗浄剤組成物は、皮膚を着色している染料を皮膚から落とすために好適に用いることができる。例えば、第1実施形態に係る染料用洗浄剤組成物は、皮膚のタンパク質と化学的相互作用（例えば、イオンの相互作用）によって結合している酸性染料を落とすために用いることができる。

[0040] [(A) トリアルキルアミンオキシド]

第1実施形態に係る染料用洗浄剤組成物は、(A) トリアルキルアミンオキシドを含有する。トリアルキルアミンオキシドは、水溶性であってもよいし、非水溶性（油溶性）であってもよい。トリアルキルアミンオキシドは、水溶性のトリアルキルアミンオキシドと油溶性のトリアルキルアミンオキシドの混合物であってもよい。水性組成物とする場合には、トリアルキルアミ

ンオキシドは水溶性であると好ましい。水ないし油性成分への溶解性は、トリアルキルアミンオキシドのアルキル基の長さによって調整することができる。

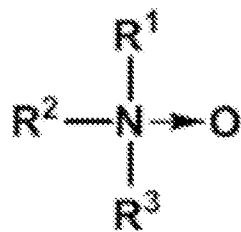
[0041] トリアルキルアミンオキシドは、化4に示す構造を有することができる。

R¹、R²及びR³は、それぞれ、直鎖アルキル基であってもよいし、分岐鎖アルキル基であってもよい。

[0042] R¹、R²及びR³のうち、いずれか2つ（例えば、R¹及びR²）は炭素数1～4のアルキル基とすることができる。R¹、R²及びR³のうち、残り1つ（例えば、R³）は、炭素数12～21のアルキル基とすることができる。トリアルキルアミンオキシドは、例えば、R¹及びR²がメチル基であり、R³がドデシル基（ラウリル基）及びオクタデシル基（ステアリル基）のうちの少なくとも一方である、ラウリルジメチルアミンオキシド及びステアリルジメチルアミンオキシドのうちの少なくとも一方とすることができる。

[0043] 水溶性の成分（A）は、例えば、水系組成物及び洗顔用組成物に配合することができる。例えば、常温固体のステアリルジメチルアミンオキシドは、乳化型組成物に配合することができる。例えば、より水溶性の高いラウリルジエチルアミンオキシドは、水系組成物に配合することができる。

[0044] [化4]



[0045] 第1実施形態において、成分（A）の含有率は、組成物の質量に対して、0.2質量%以上であると好ましく、0.4質量%以上であるとより好ましく、0.6質量%以上であるとより好ましく、0.8質量%以上であるとより好ましく、1質量%以上であるとより好ましく、1.2質量%以上であるとより好ましく、1.5質量%以上であるとさらに好ましい。成分（A）が0.2質量%未満であると、ティント成分に対する洗浄性が低下してしまう

。成分（A）の含有率は、組成物の質量に対して、例えば、5質量%以下、4質量%以下、3質量%以下、又は2質量%以下とすることができる。

[0046] 第1実施形態によれば、皮膚を着色した染料（例えばティント化粧料）を皮膚から洗浄することができる。

[0047] 第1実施形態に係る染料用洗浄剤組成物は、洗い流しが不要なリーブオンタイプの洗浄剤として使用することもできる。

[0048] 第1実施形態に係る洗浄剤組成物において、成分（A）は、油相及び水相のいずれにも溶解させてもよい。例えば、成分（A）が油溶性である場合には、成分（A）を水溶性アルコールに溶解させることによって水相に添加することができる。

[0049] 第1実施形態に係る洗浄剤組成物は、（B）油性成分、（C）界面活性剤、（D）水、（E）水溶性アルコール、及び（F）ポリオール誘導体のうちの少なくとも1つをさらに含有することができる。

[0050] [（B）油性成分]

成分（A）が油溶性である場合、油性成分は成分（A）を溶解できるような成分であると好ましい。また、成分（B）は、マスカラ等の油性化粧料に対して洗浄性が高いと好ましい。成分（B）は、主として、室温において液状であると好ましい。

[0051] 油性成分としては、例えば、液体油脂、固体油脂、ロウ、炭化水素、高級脂肪酸、高級アルコール、合成エステル油、シリコン油等を使用することができる。

[0052] 液体油脂としては、例えば、アボガド油、ツバキ油、タートル油、マカデミアナッツ油、トウモロコシ油、ミンク油、オリーブ油、ナタネ油、卵黄油、ゴマ油、パーシック油、小麦胚芽油、サザンカ油、ヒマシ油、アマニ油、サフラワー油、綿実油、エノ油、大豆油、落花生油、茶実油、カヤ油、コメヌカ油、シナギリ油、日本キリ油、ホホバ油、胚芽油、トリグリセリン等が挙げられる。

[0053] 固体油脂としては、例えば、カカオ脂、ヤシ油、馬脂、硬化ヤシ油、パー

ム油、牛脂、羊脂、硬化牛脂、パーム核油、豚脂、牛骨脂、モクロウ核油、硬化油、牛脚脂、モクロウ、硬化ヒマシ油等が挙げられる。

[0054] ロウ類としては、例えば、ミツロウ、カンデリラロウ、綿ロウ、カルナウバロウ、ベイベリーロウ、イボタロウ、鯨ロウ、モンタンロウ、ヌカロウ、ラノリン、カポックロウ、酢酸ラノリン、液状ラノリン、サトウキビロウ、ラノリン脂肪酸イソプロピル、ラウリン酸ヘキシル、還元ラノリン、ジョジョバロウ、硬質ラノリン、セラックロウ、POEラノリンアルコールエーテル、POEラノリンアルコールアセテート、POEコレステロールエーテル、ラノリン脂肪酸ポリエチレングリコール、POE水素添加ラノリンアルコールエーテル等が挙げられる。

[0055] 炭化水素油としては、例えば、流動パラフィン、オゾケライト、スクワラン、プリスタン、パラフィン、セレシン、スクワレン、ワセリン、マイクロクリスタリンワックス、*n*-ヘキサン、イソヘキサン、シクロヘキサン、*n*-オクタン、イソオクタン、*n*-ノナン、*n*-デカン、イソドデカン、イソヘキサデカン等が挙げられる。

[0056] 高級脂肪酸としては、例えば、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ベヘン酸、オレイン酸、ウンデシレン酸、トール酸、イソステアリン酸、リノール酸、リノレイン酸、エイコサペンタエン酸（EPA）、ドコサヘキサエン酸（DHA）等が挙げられる。

[0057] 高級アルコールとしては、例えば、直鎖アルコール（例えば、ラウリルアルコール、セチルアルコール、ステアリルアルコール、ベヘニルアルコール、ミリスチルアルコール、オレイルアルコール、セトステアリルアルコール等）；分枝鎖アルコール（例えば、モノステアリルグリセリンエーテル（バチルアルコール）、2-デシルテトラデシノール、ラノリンアルコール、コレステロール、フィトステロール、ヘキシルドデカノール、イソステアリルアルコール、オクチルドデカノール等）等を使用することができる。

[0058] 合成エステル油としては、ミリスチン酸イソプロピル、オクタン酸セチル、ミリスチン酸オクチルドデシル、パルミチン酸イソプロピル、ステアリン

酸ブチル、ラウリン酸ヘキシル、ミリスチン酸ミリスチル、オレイン酸デシル、ジメチルオクタン酸ヘキシルデシル、乳酸セチル、乳酸ミリスチル、酢酸ラノリン、ステアリン酸イソセチル、イソステアリン酸イソセチル、1,2-ヒドロキシステアリン酸コレステリル、ジ-2-エチルヘキサン酸エチレングリコール、ジペンタエリスリトール脂肪酸エステル、モノイソステアリン酸N-アルキルグリコール、ジカプリン酸ネオペンチルグリコール、リンゴ酸ジイソステアリル、ジ-2-ヘプチルウンデカン酸グリセリン、トリ-2-エチルヘキサン酸トリメチロールプロパン、トリイソステアリン酸トリメチロールプロパン、テトラ-2-エチルヘキサン酸ペンタエリスリトール、トリ-2-エチルヘキサン酸グリセリン、トリオクタン酸グリセリン、トリイソパルミチン酸グリセリン、トリイソステアリン酸トリメチロールプロパン、セチル2-エチルヘキサノエート、2-エチルヘキシルパルミテート、トリミリスチン酸グリセリン、トリ-2-ヘプチルウンデカン酸グリセライド、ヒマシ油脂肪酸メチルエステル、オレイン酸オレイル、アセトグリセライド、パルミチン酸2-ヘプチルウンデシル、アジピン酸ジイソブチル、N-ラウロイル-L-グルタミン酸-2-オクチルドデシルエステル、アジピン酸ジ-2-ヘプチルウンデシル、エチルラウレート、セバシン酸ジ-2-エチルヘキシル、ミリスチン酸2-ヘキシルデシル、パルミチン酸2-ヘキシルデシル、アジピン酸2-ヘキシルデシル、セバシン酸ジイソプロピル、コハク酸2-エチルヘキシル、クエン酸トリエチル等が挙げられる。

[0059] シリコーン油としては、ジメチルポリシロキサン、メチルヒドロジェンポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、ステアロキシメチルポリシロキサン、ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン、フルオロアルキル・ポリオキシアルキレン共変性オルガノポリシロキサン、アルキル変性オルガノポリシロキサン、末端変性オルガノポリシロキサン、フッ素変性オルガノポリシロキサン、アミノ変性オルガノポリシロキサン、シリコーンゲル、アクリルシリコーン、トリメチルシロキシケイ酸、シリコーンRTVゴム等のシリコーン化合物等が挙げられる。

[0060] 上記油性成分のうち、イソドデカン、ジメチルポリシロキサン、オクタン酸セチル等が、油性化粧料に対する洗浄性が高いので好ましい。

[0061] 成分（B）の含有率は、組成物の質量に対して、20質量%以上であると好ましく、25質量%以上であるとより好ましく、28質量%以上であるとさらに好ましい。成分（B）が20質量%未満であると、成分（A）が析出して、液体組成物の透明性が低下してしまうことがある。成分（B）の含有率は、組成物の質量に対して、例えば、80質量%以下、70質量%以下、又は60質量%以下とすることができる。

[0062] 成分（B）のうち、揮発性油性成分は、組成物の質量に対して、15質量%以上であると好ましく、20質量%以上であるとより好ましく、25質量%以上であるとさらに好ましい。揮発性油性成分が15質量%未満であると、油性化粧料に対する洗浄性が低下してしまう。揮発性油性成分の含有率は、組成物の質量に対して、例えば、50質量%以下、45質量%以下、又は40質量%以下とすることができる。

[0063] [（C）界面活性剤]

成分（C）は、例えば、油水2層型の洗浄剤組成物において、使用時に洗浄剤組成物を一時的な乳化状態とするために添加することができる。成分（C）の例としては、以下の界面活性剤を挙げることができる。

[0064] [（C1）アニオン性界面活性剤]

アニオン性界面活性剤としては、例えば、脂肪酸セッケン（例えば、ラウリン酸ナトリウム、パルミチン酸ナトリウム等）；高級アルキル硫酸エステル塩（例えば、ラウリル硫酸ナトリウム、ラウリル硫酸カリウム等）；アルキルエーテル硫酸エステル塩（例えば、POEーラウリル硫酸トリエタノールアミン、POEーラウリル硫酸ナトリウム等）；Nーアシルサルコシン酸（例えば、ラウロイルサルコシンナトリウム等）；高級脂肪酸アミドスルホン酸塩（例えば、NーステアロイルーNーメチルタウリンナトリウム、NーミリストールーNーメチルタウリンナトリウム、ヤシ油脂肪酸メチルタウリンナトリウム、ラウリルメチルタウリッドナトリウム等）；リン酸エステル

塩（POE-オレイルエーテルリン酸ナトリウム、POE-ステアシルエーテルリン酸等）；スルホコハク酸塩（例えば、ジ-2-エチルヘキシルスルホコハク酸ナトリウム、モノラウロイルモノエタノールアミドポリオキシエチレンスルホコハク酸ナトリウム、ラウリルポリプロピレングリコールスルホコハク酸ナトリウム等）；アルキルベンゼンスルホン酸塩（例えば、リニアドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウム、リニアドデシルベンゼンスルホン酸トリエタノールアミン、リニアドデシルベンゼンスルホン酸等）；高級脂肪酸エステル硫酸エステル塩（例えば、硬化ヤシ油脂肪酸グリセリン硫酸ナトリウム等）；N-アシルグルタミン酸塩（例えば、N-ラウロイルグルタミン酸モノナトリウム、N-ステアロイルグルタミン酸ジナトリウム、N-ミリストイル-L-グルタミン酸モノナトリウム等）；硫酸化油（例えば、ロート油等）；POE-アルキルエーテルカルボン酸；POE-アルキルアリルエーテルカルボン酸塩； α -オレフィンスルホン酸塩；高級脂肪酸エステルスルホン酸塩；二級アルコール硫酸エステル塩；高級脂肪酸アルキロールアミド硫酸エステル塩；ラウロイルモノエタノールアミドコハク酸ナトリウム；N-パルミトイルアスパラギン酸ジトリエタノールアミン；カゼインナトリウム等を使用することができる。

[0065] [(C2) カチオン性界面活性剤]

カチオン界面活性剤としては、例えば、アルキルトリメチルアンモニウム塩（例えば、塩化ステアリルトリメチルアンモニウム、塩化ラウリルトリメチルアンモニウム等）；アルキルピリジニウム塩（例えば、塩化セチルピリジニウム等）；ジアルキルジメチルアンモニウム塩（例えば、塩化ジステアリルジメチルアンモニウム）；塩化ポリ（N, N'-ジメチル-3, 5-メチレンピペリジニウム）；アルキル四級アンモニウム塩；アルキルジメチルベンジルアンモニウム塩；アルキルイソキノリニウム塩；ジアルキルモリホニウム塩；POE-アルキルアミン；アルキルアミン塩；ポリアミン脂肪酸誘導体；アミルアルコール脂肪酸誘導体；塩化ベンザルコニウム；塩化ベンゼトニウム；アミノ酸系カチオン界面活性剤（例えば、N-ヤシ油脂肪酸アシ

ルーＬ－アルギニンエチル・ＤＬ－ピロリドンカルボン酸塩）等が挙げられる。

[0066] [(C3) 両性界面活性剤]

両性界面活性剤としては、例えば、イミダゾリン系両性界面活性剤（例えば、２－ウンデシル－Ｎ，Ｎ，Ｎ－（ヒドロキシエチルカルボキシメチル）－２－イミダゾリンナトリウム、２－ココイル－２－イミダゾリニウムヒドロキサイド－１－カルボキシエチロキシ２ナトリウム塩等）；ベタイン系界面活性剤（例えば、２－ヘプタデシル－Ｎ－カルボキシメチル－Ｎ－ヒドロキシエチルイミダゾリニウムベタイン、ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン、アルキルベタイン、アミドベタイン、スルホベタイン等）等が挙げられる。

[0067] [(C4) 親水性非イオン性界面活性剤]

親水性非イオン界面活性剤としては、例えば、ＰＯＥ－ソルビタン脂肪酸エステル（例えば、ＰＯＥ－ソルビタンモノオレエート、ＰＯＥ－ソルビタンモノステアレート、ＰＯＥ－ソルビタンモノオレエート、ＰＯＥ－ソルビタンテトラオレエート等）；ＰＯＥ－ソルビット脂肪酸エステル（例えば、ＰＯＥ－ソルビットモノラウレート、ＰＯＥ－ソルビットモノオレエート、ＰＯＥ－ソルビットペンタオレエート、ＰＯＥ－ソルビットモノステアレート等）；ＰＯＥ－グリセリン脂肪酸エステル（例えば、ＰＯＥ－グリセリンモノステアレート、ＰＯＥ－グリセリンモノイソステアレート、ＰＯＥ－グリセリントリイソステアレート等のＰＯＥ－モノオレエート等）；ＰＯＥ－脂肪酸エステル（例えば、ＰＯＥ－ジステアレート、ＰＯＥ－モノジオレエート、ジステアリン酸エチレングリコール等）；ＰＯＥ－アルキルエーテル（例えば、ＰＯＥ－ラウリルエーテル、ＰＯＥ－オレイルエーテル、ＰＯＥ－ステアリルエーテル、ＰＯＥ－ベヘニルエーテル、ＰＯＥ－２－オクチルドデシルエーテル、ＰＯＥ－コレスタノールエーテル等）；プルロニック型（例えば、プルロニック等）；ＰＯＥ・ＰＯＰ－アルキルエーテル（例えば、ＰＯＥ・ＰＯＰ－セチルエーテル、ＰＯＥ・ＰＯＰ－２－デシルテトラデ

シルエーテル、POE・POPーモノブチルエーテル、POE・POPー水添ラノリン、POE・POPーグリセリンエーテル等）；テトラPOE・テトラPOPーエチレンジアミン縮合物（例えば、テトロニック等）；POEーヒマシ油硬化ヒマシ油誘導体（例えば、POEーヒマシ油、POEー硬化ヒマシ油、POEー硬化ヒマシ油モノイソステアレート、POEー硬化ヒマシ油トリイソステアレート、POEー硬化ヒマシ油モノピログルタミン酸モノイソステアリン酸ジエステル、POEー硬化ヒマシ油マレイン酸等）；POEーミツロウ・ラノリン誘導体（例えば、POEーソルビットミツロウ等）；アルカノールアミド（例えば、ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド、ラウリン酸モノエタノールアミド、脂肪酸イソプロパノールアミド等）；POEープロピレングリコール脂肪酸エステル；POEーアルキルアミン；POEー脂肪酸アミド；ショ糖脂肪酸エステル；アルキルエトキシジメチルアミノキシド；トリオレイルリン酸等が挙げられる。

[0068] [(C5) 親油性非イオン性界面活性剤]

親油性非イオン界面活性剤としては、例えば、ソルビタン脂肪酸エステル（例えば、ソルビタンモノオレエート、ソルビタンモノイソステアレート、ソルビタンモノラウレート、ソルビタンモノパルミテート、ソルビタンモノステアレート、ソルビタンセスキオレエート、ソルビタントリオレエート、ペンター2ーエチルヘキシル酸ジグリセロールソルビタン、テトラー2ーエチルヘキシル酸ジグリセロールソルビタン等）；グリセリンポリグリセリン脂肪酸（例えば、モノ綿実油脂肪酸グリセリン、モノエルカ酸グリセリン、セスキオレイン酸グリセリン、モノステアリン酸グリセリン、 α, α' ーオレイン酸ピログルタミン酸グリセリン、モノステアリン酸グリセリンリンゴ酸等）；プロピレングリコール脂肪酸エステル（例えば、モノステアリン酸プロピレングリコール等）；硬化ヒマシ油誘導体；グリセリンアルキルエーテル等が挙げられる。

[0069] 洗浄剤組成物をリーブオンタイプとして使用可能にする場合、皮膚への低刺激性の観点から、界面活性剤は、アルキルベタイン、Nーヤシ油脂肪酸ア

シルーレーアルギニンエチル・D Lーピロリドンカルボン酸塩（ココイルアルギニンエチルPCA）、塩化ベンザルコニウム等がより好ましい。

[0070] リーブオンタイプとして使用可能な洗浄剤組成物とする場合、成分（C）の含有率は、組成物の質量に対して、0.02質量%以上、0.05質量%以上、又は0.07質量%以上とすることができる。成分（C）が0.02質量%未満であると、ティント成分に対する洗浄性が低下してしまう。成分（C）の含有率は、組成物の質量に対して、例えば、0.3質量%以下、0.2質量%以下、0.15質量%以下、又は0.1質量%以下とすることができる。

[0071] リーブオンタイプとして使用しない洗浄剤組成物とする場合、成分（C）の含有率は、組成物の質量に対して、1質量%以上、1.5質量%以上、又は2質量%以上とすることができる。成分（C）の含有率は、組成物の質量に対して、例えば、5質量%以下、3質量%以下、又は2質量%以下とすることができる。

[0072] [(D) 水]

水としては、化粧品、医薬部外品等に使用される水を使用することができる、例えば、精製水、イオン交換水、水道水等を使用することができる。

[0073] 成分（D）の含有率は、組成物の質量に対して、20質量%以上であると好ましく、30質量%以上であるとより好ましく、40質量%以上であるとさらに好ましい。成分（D）が20質量%未満であると、組成物が油水2層分離型である場合、振盪後の乳化時間が不十分となってしまう。成分（D）の含有率は、組成物の質量に対して、例えば、80質量%以下、70質量%以下、又は60質量%以下とすることができる。

[0074] [(E) 水溶性アルコール]

水溶性アルコールとしては、例えば、低級アルコール、多価アルコール、多価アルコール重合体、2価のアルコールアルキルエーテル類、2価アルコールアルキルエーテル類、2価アルコールエーテルエステル、グリセリンモノアルキルエーテル、糖アルコール、単糖、オリゴ糖、多糖およびそれらの

誘導体等から選ばれる少なくとも1つを挙げることができる。

[0075] 低級アルコールとしては、例えば、エタノール、プロパノール、イソプロパノール、イソブチルアルコール、*t*-ブチルアルコール等が挙げられる。

[0076] 多価アルコールとしては、例えば、2価のアルコール（例えば、エチレングリコール、プロピレングリコール、トリメチレングリコール、1, 2-ブチレングリコール、1, 3-ブチレングリコール、テトラメチレングリコール、2, 3-ブチレングリコール、ペンタメチレングリコール、2-ブテン-1, 4-ジオール、ヘキシレングリコール、オクチレングリコール等）；3価のアルコール（例えば、グリセリン、トリメチロールプロパン等）；4価アルコール（例えば、1, 2, 6-ヘキサントリオール等のペンタエリスリトール等）；5価アルコール（例えば、キシリトール等）；6価アルコール（例えば、ソルビトール、マンニトール等）；多価アルコール重合体（例えば、ジエチレングリコール、ジプロピレングリコール、トリエチレングリコール、ポリプロピレングリコール、テトラエチレングリコール、ジグリセリン、ポリエチレングリコール、トリグリセリン、テトラグリセリン、ポリグリセリン等）；2価のアルコールアルキルエーテル類（例えば、エチレングリコールモノメチルエーテル、エチレングリコールモノエチルエーテル、エチレングリコールモノブチルエーテル、エチレングリコールモノフェニルエーテル、エチレングリコールモノヘキシルエーテル、エチレングリコールモノ2-メチルヘキシルエーテル、エチレングリコールイソアミルエーテル、エチレングリコールベンジルエーテル、エチレングリコールイソプロピルエーテル、エチレングリコールジメチルエーテル、エチレングリコールジエチルエーテル、エチレングリコールジブチルエーテル等）；2価アルコールアルキルエーテル類（例えば、ジエチレングリコールモノメチルエーテル、ジエチレングリコールモノエチルエーテル、ジエチレングリコールモノブチルエーテル、ジエチレングリコールジメチルエーテル、ジエチレングリコールジエチルエーテル、ジエチレングリコールブチルエーテル、ジエチレングリコールメチルエチルエーテル、トリエチレングリコールモノメチルエーテ

ル、トリエチレングリコールモノエチルエーテル、プロピレングリコールモノメチルエーテル、プロピレングリコールモノエチルエーテル、プロピレングリコールモノブチルエーテル、プロピレングリコールイソプロピルエーテル、ジプロピレングリコールメチルエーテル、ジプロピレングリコールエチルエーテル、ジプロピレングリコールブチルエーテル等) ; 2 価アルコールエーテルエステル (例えば、エチレングリコールモノメチルエーテルアセテート、エチレングリコールモノエチルエーテルアセテート、エチレングリコールモノブチルエーテルアセテート、エチレングリコールモノフェニルエーテルアセテート、エチレングリコールジアジペート、エチレングリコールジサクシネート、ジエチレングリコールモノエチルエーテルアセテート、ジエチレングリコールモノブチルエーテルアセテート、プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート、プロピレングリコールモノエチルエーテルアセテート、プロピレングリコールモノプロピルエーテルアセテート、プロピレングリコールモノフェニルエーテルアセテート等) ; グリセリンモノアルキルエーテル (例えば、キミルアルコール、セラキルアルコール、バチルアルコール等) ; 糖アルコール (例えば、ソルビトール、マルチトール、マルトトリオース、マンニトール、ショ糖、エリトリトール、グルコース、フルクトース、デンプン分解糖、マルトース、キシリトール、デンプン分解糖還元アルコール等) ; グリコリド ; テトラヒドロフルフリルアルコール ; P O E - テトラヒドロフルフリルアルコール ; P O P - ブチルエーテル ; P O P ・ P O E - ブチルエーテル ; トリポリオキシプロピレングリセリンエーテル ; P O P - グリセリンエーテル ; P O P - グリセリンエーテルリン酸 ; P O P ・ P O E - ペンタンエリスリトールエーテル、ポリグリセリン等が挙げられる。

[0077] 単糖としては、例えば、三炭糖 (例えば、D - グリセリルアルデヒド、ジヒドロキシアセトン等)、四炭糖 (例えば、D - エリトロース、D - エリトルロース、D - トレオース、エリスリトール等)、五炭糖 (例えば、L - アラビノース、D - キシロース、L - リキソース、D - アラビノース、D - リ

ボース、D-リブロース、D-キシロース、L-キシロース等）、六炭糖（例えば、D-グルコース、D-タロース、D-プシコース、D-ガラクトース、D-フルクトース、L-ガラクトース、L-マンノース、D-タガトース等）、七炭糖（例えば、アルドヘプトース、ヘプツロース等）、八炭糖（例えば、オクツロース等）、デオキシ糖（例えば、2-デオキシ-D-リボース、6-デオキシ-L-ガラクトース、6-デオキシ-L-マンノース等）、アミノ糖（例えば、D-グルコサミン、D-ガラクトサミン、シアル酸、アミノウロン酸、ムラミン酸等）、ウロン酸（例えば、D-グルクロン酸、D-マンヌロン酸、L-グルロン酸、D-ガラクトン酸、L-イズロン酸等）等から選ばれる少なくとも1つを挙げることができる。

[0078] オリゴ糖としては、例えば、ショ糖、グンチアノース、ウンベリフェロース、ラクトース、プランテオース、イソリクノース類、 α 、 α -トレハロース、ラフィノース、リクノース類、ウンビリシン、スタキオース、ベルバスコース類等から選ばれる少なくとも1つを挙げることができる。

[0079] 多糖としては、例えば、セルロース、クインシード、コンドロイチン硫酸、デンプン、ガラクトタン、デルマタン硫酸、グリコーゲン、アラビアガム、ヘパラン硫酸、ヒアルロン酸、トラガントガム、ケラタン硫酸、コンドロイチン、キサンタンガム、ムコイチン硫酸、グアガム、デキストラン、ケラト硫酸、ローカストビーンガム、サクシノグルカン、カロニン酸等から選ばれる少なくとも1つを挙げることができる。

[0080] その他のポリオールとしては、例えば、ポリオキシエチレンメチルグルコシド（グルカムE-10）、ポリオキシプロピレンメチルグルコシド（グルカムP-10）等から選ばれる少なくとも1つを挙げることができる。

[0081] 上記のうち、水溶性アルコールとしては、乳化時間の調整および防腐性の観点により、エタノール、ブチレングリコール、ジプロピレングリコール等がより好ましい。

[0082] 成分（E）の含有率は、組成物の質量に対して、2質量%以上であると好ましく、5質量%以上であるとより好ましく、10質量%以上であるとさら

に好ましい。成分（E）が2質量%未満であると、防腐力不足となってしまう。成分（E）の含有率は、組成物の質量に対して、例えば、30質量%以下であると好ましく、20質量%以下であるとより好ましく、15質量%以下であるとさらに好ましい。成分（E）が30質量%を超えると、組成物が油水2層分離型である場合、振盪後の乳化が不十分となってしまう。

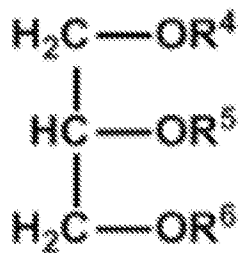
[0083] [(F) ポリオール誘導体]

第1実施形態に係る洗浄剤組成物は、ポリオール誘導体をさらに含有することができる。ポリオール誘導体は、グリセリン誘導体及びグリコール誘導体のうちの少なくとも一方とすることができる。

[0084] グリセリン誘導体としては、例えば、アルキルグリセリルエーテル及び／又はグリセリンエステル、特にモノアルキルグリセリルエーテル、を使用することができる。グリセリン誘導体としては、下記化5に示される化合物のいずれかを使用することができる。化5に示す化学式において、 R^4 、 R^5 及び R^6 のうち、いずれか1つはアルキル基、アルケニル基又はアシル基とすることができ、他の2つは水素原子とすることができる。アルキル基、アルケニル基又はアシル基の炭素数は4以上であると好ましい。炭素数が4未満であると十分な洗浄作用を得ることができない。アルキル基、アルケニル基又はアシル基の炭素数は15以下であると好ましく、12以下であるとより好ましい。炭素数が15を超えると十分な洗浄作用を得ることができない。アルキル基、アルケニル基又はアシル基は、直鎖状であってもよいし、分岐鎖状であってもよい。

[0085] グリセリン誘導体の例としては、エチルヘキシルグリセリン（オクトキシグリセリン）、ヘキシルグリセリン、イソオクタン酸グリセリル、ラウリン酸ポリグリセリル-2、モノオクタン酸グリセリル等を挙げることができる。このうち、容器内面に付着する液滴解消の観点から2-エチルヘキシル基を有するエチルヘキシルグリセリン及び／又はヘキシル基を有するヘキシルグリセリンが好ましい。エチルヘキシルグリセリンの市販品としては、例えば、Sensiva SC50（Schulke & Mayr社製）等が挙げられる。

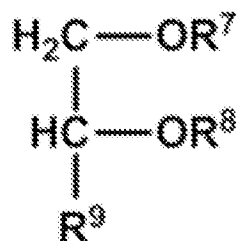
[0086] [化5]



[0087] グリコール誘導体としては、例えば、グリコールエステル及び／又はグリコールエーテルを使用することができる。グリコール誘導体としては、例えば、プロピレングリコール脂肪酸エステル及び／又はプロピレングリコールエーテル、特にプロピレングリコールモノ脂肪酸エステル、を使用することができる。グリコール誘導体は、化6に示す化合物とすることができる。化6に示す化学式において、 R^7 及び R^8 のうち、一方は炭素数10～20のアルキル基、アルケニル基又はアシル基とすることができ、他方は水素原子とすることができる。 R^9 は炭素数1～4のアルキル基、アルケニル基、アシル基又は水素原子とすることができる。アルキル基、アルケニル基又はアシル基は、直鎖状であってもよいし、分岐鎖状であってもよい。

[0088] グリコール誘導体の例としては、ラウリン酸プロピレングリコール、ステアリン酸プロピレングリコール、イソステアリン酸プロピレングリコール等を挙げることができる。

[0089] [化6]



[0090] グリセリン誘導体及びグリコール誘導体は、油相と水相のいずれに存在していてもよい。

[0091] 成分(F)は、洗浄剤組成物が容器内面に付着した液滴が残存することを抑制することができる。例えば、特に、洗浄剤組成物が油水2層型液体であ

る場合に、液体上部の透明容器内面に付着した液滴が透けて見えることを抑制し、製品の見た目を改善することができる。

[0092] 成分（F）は、洗浄剤組成物が油水２層型である場合に、一時的乳化後の静置による油相と水相の再分離時に、油相と水相の界面を明確にする作用も有する。これにより、容器から透けて見える油水分離組成物の外観をさらに改善することができる。

[0093] 成分（F）は、洗浄剤組成物が油水２層構造であり、油溶性の成分（A）が水相に配合している場合に、一時的乳化後における洗浄剤組成物の安定性を高めることができる。また、グリセリン誘導体は、洗浄剤組成物の洗浄性を高めることができる。

[0094] 上記成分（F）の含有率は、組成物の質量に対して、０．０６質量％以上であると好ましく、０．０７質量％以上であるとより好ましく、０．０８質量％以上であるとさらに好ましい。ポリオール誘導体の含有率は、組成物の質量に対して、０．１質量％以上、０．２質量％以上、又は０．５質量％以上とすることができる。ポリオール誘導体が０．０６質量％未満では、上述の作用を十分に得ることができない。上記成分（F）の含有率は、組成物の質量に対して、１．８質量％以下であると好ましく、１．５質量％以下であるとより好ましく、１．２質量％以下であるとさらに好ましい。ポリオール誘導体の含有率は、組成物の質量に対して、１質量％以下、０．８質量％以下、又は０．５質量％以下とすることができる。ポリオール誘導体が１．８質量％を超えると、油相と水相の界面が不鮮明になってしまう。

[0095] [（G）塩]

第１実施形態に係る洗浄剤組成物は、水又は水相を含有する場合、塩をさらに含有することができる。特に、洗浄剤組成物を油水２層型とする場合に、洗浄剤組成物は塩を含有すると好ましい。塩の添加によって、一時的乳化後の再分離速度を調整することができる。

[0096] 成分（G）は、皮膚に対して低刺激性を有するものであれば、無機塩であっても、有機塩であってもよい。成分（G）の例としては、塩化ナトリウム

、塩化カリウム、クエン酸ナトリウム、エデト酸ナトリウム等を挙げることができる。

[0097] 成分（G）の含有率は、組成物の質量に対して、0.1質量%以上であると好ましく、0.2質量%以上であるとより好ましく、0.3質量%以上であるとさらに好ましい。成分（G）が0.1質量%未満では、上述の作用を十分に得ることができない。成分（G）の含有率は、組成物の質量に対して、2質量%以下であると好ましく、1.5質量%以下であるとより好ましく、1質量%以下であるとさらに好ましい。成分（G）が2質量%を超えると、組成物が油水2層分離型である場合、振盪後の乳化が不十分となってしまう。

[0098] [（H）その他]

本開示の洗浄剤組成物は、本開示の効果を阻害しない範囲において、他の成分、例えば、粉体、保湿剤、水溶性高分子、増粘剤、皮膜剤、紫外線吸収剤、金属イオン封鎖剤、アミノ酸、有機アミン、高分子エマルジョン、pH調整剤、皮膚栄養剤、ビタミン、酸化防止剤、酸化防止助剤、香料等を必要に応じて適宜含有することができる。

[0099] 本明細書において使用する用語「粉体」は「粉末」と同義である。粉体は、化粧料用途等、一般に用い得るものであれば特に限定されるものではない。粉末としては、例えば、無機粉末（例えば、タルク、カオリン、雲母、絹雲母（セリサイト）、白雲母、金雲母、合成雲母、紅雲母、黒雲母、リチア雲母、焼成雲母、焼成タルク、バーミキュライト、炭酸マグネシウム、炭酸カルシウム、ケイ酸アルミニウム、ケイ酸バリウム、ケイ酸カルシウム、ケイ酸マグネシウム、ケイ酸ストロンチウム、タングステン酸金属塩、マグネシウム、シリカ、ゼオライト、ガラス、硫酸バリウム、焼成硫酸カルシウム（焼セッコウ）、リン酸カルシウム、フッ素アパタイト、ヒドロキシアパタイト、セラミックパウダー、金属石鹼（例えば、ミリスチン酸亜鉛、パルミチン酸カルシウム、ステアリン酸アルミニウム）、窒化ホウ素等）；有機粉末（例えば、ポリアミド樹脂粉末（ナイロン粉末）、ポリエチレン粉末、ポリメタクリル

酸メチル粉末、ポリスチレン粉末、スチレンとアクリル酸の共重合体樹脂粉末、ベンゾグアナミン樹脂粉末、ポリ四フッ化エチレン粉末、セルロース粉末、シリコン樹脂粉末、シルクパウダー、ウールパウダー、ウレタンパウダー等）；無機白色顔料（例えば、二酸化チタン、酸化亜鉛等）；無機赤色系顔料（例えば、酸化鉄（ベンガラ）、チタン酸鉄等）；無機褐色系顔料（ γ -酸化鉄等）、無機黄色系顔料（黄酸化鉄、黄土等）、無機黒色系顔料（黒酸化鉄、カーボンブラック、低次酸化チタン等）、無機紫色系顔料（例えば、マンガンバイオレット、コバルトバイオレット等）；無機緑色系顔料（例えば、酸化クロム、水酸化クロム、チタン酸コバルト等）；無機青色系顔料（例えば、群青、紺青等）；パール顔料（例えば、酸化チタンコーテッドマイカ、酸化チタンコーテッドオキシ塩化ビスマス、酸化チタンコーテッドタルク、着色酸化チタンコーテッドマイカ、オキシ塩化ビスマス、魚鱗箔等）；金属粉末顔料（例えば、アルミニウムパウダー、銅パウダー等）；ジルコニウム、バリウム又はアルミニウムレーキ等の有機顔料（例えば、赤色201号、赤色202号、赤色204号、赤色205号、赤色220号、赤色226号、赤色228号、赤色405号、橙色203号、橙色204号、黄色205号、黄色401号、及び青色404号などの有機顔料、赤色3号、赤色104号、赤色106号、赤色227号、赤色230号、赤色401号、赤色505号、橙色205号、黄色4号、黄色5号、黄色202号、黄色203号、緑色3号及び青色1号等）；天然色素（例えば、クロロフィル、 β -カロチン等）等を使用することができる。

[0100] 保湿剤としては、例えば、ポリエチレングリコール、プロピレングリコール、グリセリン、1,3-ブチレングリコール、キシリトール、ソルビトール、マルチトール、コンドロイチン硫酸、ヒアルロン酸、ムコイチン硫酸、カロニン酸、アテロコラーゲン、コレステリル-12-ヒドロキシステアレート、乳酸ナトリウム、胆汁酸塩、d-1-ピロリドンカルボン酸塩、アルキレンオキシド誘導体、短鎖可溶性コラーゲン、ジグリセリン（EO）PO付加物、イザヨイバラ抽出物、セイヨウノコギリソウ抽出物、メリロート抽出

物等が挙げられる。

[0101] 天然の水溶性高分子としては、例えば、植物系高分子（例えば、アラビアガム、トラガカントガム、ガラクトン、グアガム、キャロブガム、カラヤガム、カラギーナン、ペクチン、カンテン、クインスシード（マルメロ）、アルゲコロイド（カッソウエキス）、デンプン（コメ、トウモロコシ、バレイショ、コムギ）、グリチルリチン酸）；微生物系高分子（例えば、キサンタンガム、デキストラン、サクシノグルカン、プルラン等）；動物系高分子（例えば、コラーゲン、カゼイン、アルブミン、ゼラチン等）等が挙げられる。

[0102] 半合成の水溶性高分子としては、例えば、デンプン系高分子（例えば、カルボキシメチルデンプン、メチルヒドロキシプロピルデンプン等）；セルロース系高分子（メチルセルロース、エチルセルロース、メチルヒドロキシプロピルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、セルロース硫酸ナトリウム、ヒドロキシプロピルセルロース、カルボキシメチルセルロース、カルボキシメチルセルロースナトリウム、結晶セルロース、セルロース末等）；アルギン酸系高分子（例えば、アルギン酸ナトリウム、アルギン酸プロピレングリコールエステル等）等が挙げられる。

[0103] 合成の水溶性高分子としては、例えば、ビニル系高分子（例えば、ポリビニルアルコール、ポリビニルメチルエーテル、ポリビニルピロリドン、カルボキシビニルポリマー等）；ポリオキシエチレン系高分子（例えば、ポリエチレングリコール20,000、40,000、60,000のポリオキシエチレンポリオキシプロピレン共重合体等）；アクリル系高分子（例えば、ポリアクリル酸ナトリウム、ポリエチルアクリレート、ポリアクリルアミド等）；ポリエチレンイミン；カチオンポリマー等が挙げられる。

[0104] 増粘剤としては、例えば、アラビアガム、カラギーナン、カラヤガム、トラガカントガム、キャロブガム、クインスシード（マルメロ）、カゼイン、デキストリン、ゼラチン、ペクチン酸ナトリウム、アルギン酸ナトリウム、メチルセルロース、エチルセルロース、カルボキシメチルセルロース（CM

C)、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ポリビニルアルコール(PVA)、ポリビニルメチルエーテル(PVM)、PVP(ポリビニルピロリドン)、ポリアクリル酸ナトリウム、カルボキシビニルポリマー、ローカストビーンガム、グアガム、タマリンドガム、ジアルキルジメチルアンモニウム硫酸セルロース、キサンタンガム、ケイ酸アルミニウムマグネシウム、ベントナイト、ヘクトライト、ケイ酸アルミニウムマグネシウム(ビーガム)、ラポナイト、無水ケイ酸、タウレート系合成高分子、アクリレート系合成高分子等が挙げられる。

[0105] 皮膜剤としては、例えば、アニオン性皮膜剤(例えば、(メタ)アクリル酸/(メタ)アクリル酸エステル共重合体、メチルビニルエーテル/無水マレイン酸高重合体等)、カチオン性皮膜剤(例えば、カチオン化セルロース、ジメチルジアリルアンモニウムクロライド重合体、ジメチルジアリルアンモニウムクロライド/アクリルアミド共重合体等)、ノニオン性皮膜剤(例えば、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、ポリ酢酸ビニル、ポリアクリル酸エステル共重合体、(メタ)アクリルアミド、高分子シリコーン、シリコーンレジン、トリメチルシロキシケイ酸等)が挙げられる。

[0106] 紫外線吸収剤としては、例えば、安息香酸系紫外線吸収剤(例えば、パラアミノ安息香酸(以下、PABAと略す)、PABAモノグリセリンエステル、N,N-ジプロポキシPABAエチルエステル、N,N-ジエトキシPABAエチルエステル、N,N-ジメチルPABAエチルエステル、N,N-ジメチルPABAブチルエステル、N,N-ジメチルPABAエチルエステル等)；アントラニル酸系紫外線吸収剤(例えば、ホモメンチル-N-アセチルアントラニレート等)；サリチル酸系紫外線吸収剤(例えば、アミルサリシレート、メンチルサリシレート、ホモメンチルサリシレート、オクチルサリシレート、フェニルサリシレート、ベンジルサリシレート、p-イソプロパノールフェニルサリシレート等)；桂皮酸系紫外線吸収剤(例えば、オクチルメトキシシンナメート、エチルー4-イソプロピルシンナメート、メチルー2,5-ジイソプロピルシンナメート、エチルー2,4-ジイソプロピル

シンナメート、メチル-2, 4-ジイソプロピルシンナメート、プロピル-p-メトキシシンナメート、イソプロピル-p-メトキシシンナメート、イソアミル-p-メトキシシンナメート、オクチル-p-メトキシシンナメート(2-エチルヘキシル-p-メトキシシンナメート)、2-エトキシエチル-p-メトキシシンナメート、シクロヘキシル-p-メトキシシンナメート、エチル- α -シアノ- β -フェニルシンナメート、2-エチルヘキシル- α -シアノ- β -フェニルシンナメート、グリセリルモノ-2-エチルヘキサノイル-ジパラメトキシシンナメート等) ; ベンゾフェノン系紫外線吸収剤(例えば、2, 4-ジヒドロキシベンゾフェノン、2, 2'-ジヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2, 2'-ジヒドロキシ-4, 4'-ジメトキシベンゾフェノン、2, 2', 4, 4'-テトラヒドロキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシ-4'-メチルベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸塩、4-フェニルベンゾフェノン、2-エチルヘキシル-4'-フェニルベンゾフェノン-2-カルボキシレート、2-ヒドロキシ-4-n-オクトキシベンゾフェノン、4-ヒドロキシ-3-カルボキシベンゾフェノン等) ; 3-(4'-メチルベンジリデン)-d, l-カンファー、3-ベンジリデン-d, l-カンファー ; 2-フェニル-5-メチルベンゾキサゾール ; 2, 2'-ヒドロキシ-5-メチルフェニルベンゾトリアゾール ; 2-(2'-ヒドロキシ-5'-t-オクチルフェニル)ベンゾトリアゾール ; 2-(2'-ヒドロキシ-5'-メチルフェニル)ベンゾトリアゾール ; ジベンザラジン ; ジアニソイルメタン ; 4-メトキシ-4'-t-ブチルジベンゾイルメタン ; 5-(3, 3-ジメチル-2-ノルボルニリデン)-3-ペンタン-2-オン、ジモルホリノピリダジノン ; 2-エチルヘキシル-2-シアノ-3, 3-ジフェニルアクリレート ; 2, 4-ビス-{[4-(2-エチルヘキシルオキシ)-2-ヒドロキシ]-フェニル}-6-(4-メトキシフェニル)-(1, 3, 5)-トリアジン等が挙げられる。

- [0107] 金属イオン封鎖剤としては、例えば、1-ヒドロキシエタン-1, 1-ジフォスホン酸、1-ヒドロキシエタン-1, 1-ジフォスホン酸四ナトリウム塩、エデト酸二ナトリウム、エデト酸三ナトリウム、エデト酸四ナトリウム、クエン酸ナトリウム、ポリリン酸ナトリウム、メタリン酸ナトリウム、グルコン酸、リン酸、クエン酸、アスコルビン酸、コハク酸、エデト酸、エチレンジアミンヒドロキシエチル三酢酸3ナトリウム等が挙げられる。
- [0108] アミノ酸としては、例えば、中性アミノ酸（例えば、スレオニン、システイン等）；塩基性アミノ酸（例えば、ヒドロキシリジン等）等が挙げられる。また、アミノ酸誘導体として、例えば、アシルサルコシンナトリウム（ラウロイルサルコシンナトリウム）、アシルグルタミン酸塩、アシル β -アラニンナトリウム、グルタチオン、ピロリドンカルボン酸等が挙げられる。
- [0109] 有機アミンとしては、例えば、モノエタノールアミン、ジエタノールアミン、トリエタノールアミン、モルホリン、トリイソプロパノールアミン、2-アミノ-2-メチル-1, 3-プロパンジオール、2-アミノ-2-メチル-1-プロパノール等が挙げられる。
- [0110] 高分子エマルジョンとしては、例えば、アクリル樹脂エマルジョン、ポリアクリル酸エチルエマルジョン、アクリルレジン液、ポリアクリルアルキルエステルエマルジョン、ポリ酢酸ビニル樹脂エマルジョン、天然ゴムラテックス等が挙げられる。
- [0111] pH調整剤としては、例えば、乳酸-乳酸ナトリウム、クエン酸-クエン酸ナトリウム、コハク酸-コハク酸ナトリウム等の緩衝剤等が挙げられる。
- [0112] ビタミン類としては、例えば、ビタミンA、B1、B2、B6、C、E及びその誘導体、パントテン酸及びその誘導体、ビオチン等が挙げられる。
- [0113] 酸化防止剤としては、例えば、トコフェロール類、ジブチルヒドロキソトルエン、ブチルヒドロキシアニソール、没食子酸エステル類等が挙げられる。
- [0114] 酸化防止助剤としては、例えば、リン酸、クエン酸、アスコルビン酸、マレイン酸、マロン酸、コハク酸、フマル酸、ケファリン、ヘキサメタフォス

フェイト、フィチン酸、エチレンジアミン四酢酸等が挙げられる。

[0115] その他の配合可能成分としては、例えば、防腐剤（エチルパラベン、ブチルパラベン、クロルフェネシン、フェノキシエタノール等）；消炎剤（例えば、グリチルリチン酸誘導体、グリチルレチン酸誘導体、サリチル酸誘導体、ヒノキチオール、酸化亜鉛、アラントイン等）；美白剤（例えば、胎盤抽出物、ユキノシタ抽出物、アルブチン等）；各種抽出物（例えば、オウバク、オウレン、シコン、シャクヤク、センブリ、バーチ、セージ、ビワ、ニンジン、アロエ、ゼニアオイ、アイリス、ブドウ、ヨクイニン、ヘチマ、ユリ、サフラン、センキュウ、ショウキョウ、オトギリソウ、オノニス、ニンニク、トウガラシ、チンピ、トウキ、海藻等）、賦活剤（例えば、ローヤルゼリー、感光素、コレステロール誘導体等）；血行促進剤（例えば、ノニル酸ワニリルアミド、ニコチン酸ベンジルエステル、ニコチン酸 β -ブトキシエチルエステル、カプサイシン、ジンゲロン、カンタリスチンキ、イクタモール、タンニン酸、 α -ボルネオール、ニコチン酸トコフェロール、イノシトールヘキサニコチネート、シ克蘭デレート、シンナリジン、トラゾリン、アセチルコリン、ベラパミル、セファランチン、 γ -オリザノール等）；抗脂漏剤（例えば、硫黄、チアントール等）；抗炎症剤（例えば、トラネキサム酸、チオタウリン、ヒポタウリン等）等が挙げられる。

[0116] さらに、本開示の組成物は、カフェイン、タンニン、ベラパミル、トラネキサム酸及びその誘導体、甘草、カリン、イチヤクソウ等の各種生薬抽出物、酢酸トコフェロール、グリチルレジン酸、グリチルリチン酸及びその誘導体又はその塩等の薬剤、ビタミンC、アスコルビン酸リン酸マグネシウム、アスコルビン酸グルコシド、アルブチン、コウジ酸等の美白剤、アルギニン、リジン等のアミノ酸及びその誘導体、も適宜含有することができる。

[0117] [相構成]

第1実施形態に係る洗浄剤組成物は、目的及び／又は用途に応じて、所望の相構成を採ることができる。洗浄剤組成物は、水性組成物、油性組成物、水中油型組成物、油中水型組成物、バイコンティニュアス型組成物、油水分

離型組成物、脂肪酸石鹼含有組成物等の形態を採ることができる。

[0118] 油水分離型組成物は、静置した状態で油相と水相とが上下に分離した2層構成を有しているものである。油水分離型組成物は、油性成分の配合量を多くすることができるので、洗浄性を高めることができる。水相の存在により、使用感を高めることができる。また、界面活性剤の配合量を少なくできるので、リーブオン（拭き取り）使用形態を採用することができる。油水2層分離タイプである場合、水相と油相の質量比は、油相1に対して、水相は0.25以上であると好ましく、0.5以上であるとより好ましく、1以上であるとさらに好ましい。水相の質量比が0.25未満であると使用時のさっぱり感が損なわれてしまう。水相と油相の質量比は、油相1に対して、水相は4以下であると好ましく、2.5以下であるとより好ましく、2以下であるとさらに好ましい。水相の質量比が4を超えると、成分（A）が析出して透明性が低下してしまう。

[0119] [pH]

第1実施形態に係る洗浄剤組成物は水相を有する場合、水相のpHは、5以上であると好ましく、5.5以上であるとより好ましい。pHが5未満であると、成分（A）が析出しやすくなって、透明性が低下してしまう。水相のpHは、8以下であると好ましく、7.5以下であるとより好ましい。pHが8を超えると、皮膚への刺激が強くなってしまう。

[0120] [外観]

第1実施形態に係る洗浄剤組成物は、高い透明性を有することができる。これにより、洗浄剤組成物は、透明な容器に入れて使用することができる。透明な容器が使用可能であると、例えば、洗浄剤組成物が油水2層分離型である場合に、振盪操作による乳化状態を目視で確認することができる。

[0121] 洗浄剤組成物が油水2層分離型である場合、水相及び油相がともに濁りがなく、かつ、水相と油相の界面が鮮明である組成物とすることができる。

[0122] [洗浄性]

本開示の洗浄剤組成物の洗浄性について説明する。第1実施形態に係る洗

浄剤組成物は、例えば、化粧品除去洗浄剤、ハンドソープ、ボディソープ、毛髪洗浄剤、台所用洗浄剤等に好適に適用することができる。

[0123] 本開示の洗浄剤組成物は、皮膚を着色している染料（例えば酸性染料）を落とすための洗浄剤として使用することができる。例えば、本開示の洗浄剤組成物はティント化粧料に適用可能な洗浄料とすることができる。ティント化粧料における染料としては、通常、酸性染料（陰イオン染料）が使用されている。酸性染料は、皮膚のタンパク質と化学的相互作用（例えば、イオンの相互作用）により結合していると考えられる。本開示の洗浄剤組成物は、成分（A）の配合によって、このような酸性染料に対する高い洗浄性を有する。

[0124] 本開示の洗浄剤組成物は、水で洗い流して使用する洗浄剤とすることもできれば、水で洗い流す必要のないタイプ（リーブオンタイプ）として使用する洗浄剤とすることもできる。リーブオンタイプである場合、例えば、洗浄対象物（例えば皮膚）に洗浄剤組成物を塗布、滴下等して、こすった後、ティッシュペーパーやパッド等の繊維体でふき取って洗浄を終えることができる。また、洗浄剤組成物を浸み込ませた繊維体で洗浄対象物（例えば皮膚）をこすって被除去成分を除去することができる。特に、上述のように、染料を皮膚から落とす場合（例えば、ティント化粧料を落とす場合）であっても、リーブオンタイプとして使用することができる。例えば、ココアンホジ酢酸2ナトリウムは、ティント化粧料に対する洗浄性を有しているが、肌への刺激性が高いため、ティント化粧料洗浄時に水で洗い流すことが必要となる。本開示の洗浄剤組成物であれば、ティント化粧料に適用可能なリーブオンタイプ洗浄料に適用することができる。

[0125] [使用方法]

第1実施形態に係る洗浄剤組成物が油水2層分離型である場合、容器から出す前に容器を振って一時的な乳化状態（乳化類似状態含む）にしてから洗浄剤組成物を容器から出すことができる。

[0126] 乳化状態にするための容器の振盪回数は、例えば、20回以下であると好

ましく、１５回以下であるとより好ましく、１０回以下であるとさらに好ましい。振盪操作によって形成された一時的な乳化状態は、一定時間継続すると好ましい。例えば、一時的な乳化状態は１０秒以上継続すると好ましく、１５秒以上継続すると好ましく、２０秒以上継続すると好ましい。また、一時的な乳化状態から、静置によって油水２層分離状態に戻した場合に、洗浄剤組成物は、白濁しておらず、透明性を有すると好ましい。また、油相と水相の界面が鮮明であると好ましい。

[0127] [製造方法]

[0128] 本開示の洗浄剤組成物の製造方法について説明する。本開示の洗浄剤組成物は特定の方法にされることなく、一般に公知の方法によって作製することができる。例えば、上記各成分を混合することによって洗浄剤組成物を作製することができる。成分（Ａ）が油溶性である場合、成分（Ａ）は成分（Ｂ）に溶解させて洗浄剤組成物を製造することができる。成分（Ａ）が水溶性である場合、成分（Ａ）は成分（Ｄ）及び／又は（Ｅ）に溶解させて洗浄剤組成物を製造することができる。

[0129] 本開示の洗浄剤組成物において、相構造等が、組成によって直接特定することが困難であるか、又はおよそ実際的ではない場合がある。このような場合には、本開示の洗浄剤組成物は、その製造方法によって洗浄剤組成物を特定することが許されるべきものである。

実施例

[0130] 本開示の洗浄剤組成物について、以下に例を挙げて説明する。しかしながら、本開示の洗浄剤組成物は以下の例に限定されるものではない。また、以下の実施例では、各試験例の洗浄剤組成物を化粧料の洗浄に適用した例について説明するが、本開示の組成物は化粧料用に限定されるものでもない。各表に示す各成分の含有率の単位は質量％である。

[0131] [試験例１～８]

油水２層分離型の洗浄剤組成物を作製し、ティント化粧料に対する洗浄性について試験を行った。各試験例における組成及び結果を表１及び表２に示

す。

[0132] 各試験例においては、油相及び水相をそれぞれ作製した後、両者を混合して、油水２層型洗浄剤組成物を作製した。以下の表に示す油相及び水相は、洗浄剤組成物作製時に各成分を配合した相を示している。したがって、振盪処理及び／又は静置時に、油相に配合した成分が水相に移行し、及び／又は、水相に配合した成分が油相に移行している可能性はあることを付言しておく。

[0133] [ティント化粧料に対する洗浄性]

ティント化粧料を塗布する内腕部分の $L^*a^*b^*$ 色空間を色差計（日本電色社Spectrophotometer SE7700）を用いて測定した。このときの a^* 値を a （Base）と表記する。次に、色空間を測定した部分にティント化粧料を内腕に塗布し、20分間放置して皮膚に染着させた。余分なティント化粧料は拭き取った。ティント化粧料としては、酸性化粧料としてテトラフルロテトラブROMフルオレセインを含有するティント化粧料を用いた。ティント化粧料を染着させた部分の $L^*a^*b^*$ 色空間を測定した。このときの a^* 値を a （Blank）と表記する。各試験例の油水２層分離型洗浄剤組成物を乳化状態にした後、洗浄剤組成物を含浸させたコットンで、ティント化粧料による着色部分を均一な力で20回こすった。洗浄剤組成物を拭き取った後、洗浄後の着色部分の $L^*a^*b^*$ 色空間を測定した。このときの a^* 値を a （Sample）と表記する。各試験例に係る洗浄剤組成物の洗浄性を以下の式から算出した洗浄率（％）により評価した。洗浄率の算出式及び評価基準を以下に示す。

[0134] [数1]

$$\text{洗浄率（％）} = \frac{1 - (a(\text{Sample}) - a(\text{Base}))}{a(\text{Blank}) - a(\text{Base})} \times 100$$

[0135] A：洗浄率75％以上；

B：洗浄率60％以上75％未満；

D：洗浄率45％以上60％未満；

D：洗浄率45％未満。

[0136] 成分（A）を含有していない試験例 1 に係る洗浄剤組成物は、ティント化粧料に対する洗浄性が低かった。しかしながら、成分（A）としてラウリルジメチルアミノキシドを添加した試験例 2～4 においては、ティント化粧料に対する洗浄性を高めることができた。成分（A）としてステアリルジメチルアミノキシドを添加した試験例 5～7 においても、ティント化粧料に対する洗浄性を高めることができた。これより、成分（A）を添加することにより、皮膚に付着した染料に対する洗浄効果を高めることができることが分かった。

[0137] 成分（A）の代わりに、N，N，N'，N'－テトラキス（2－ヒドロキシプロピル）エチレンジアミンを添加した試験例 8 においてもティント化粧料に対する洗浄性の改善が見られた。しかしながら、試験例 8 の評価は、成分（A）の添加率がエチレンジアミン化合物の 3 分の 1 以下である試験例 2 と同等であった。成分（A）の含有率が試験例 8 のエチレンジアミン化合物と同等の試験例 4 及び 7 と比較すると、試験例 4 及び 7 のほうが洗浄性が相当高かった。これより、成分（A）によれば、試験例 8 のエチレンジアミン化合物に比べて、より少ない添加量でティント化粧料に対する高い洗浄性を得ることができることが分かる。

[0138] 試験例 2～7 において、成分（A）の配合量を多くすると、洗浄性が向上する傾向が認められた。これより、成分（A）の配合量は、組成物の質量に対して、0.2 質量%以上であると好ましく、0.4 質量%以上であるとより好ましく、0.6 質量%以上であるとより好ましく、0.8 質量%以上であるとより好ましく、1 質量%以上であるとより好ましく、1.2 質量%以上であるとより好ましく、1.5 質量%以上であるとさらに好ましいと考えられる。

[0139] 試験例 2～7 に係る洗浄剤組成物は、リーブオンタイプとして使用することができた。

[0140]

[表1]

試験例		1	2	3	4
油相	(B)ジメチコン	24	24	24	24
	(B)イソドデカン	8	8	8	8
水相	(E)エタノール	3	3	3	8
	(F)1,3 ブチレングリコール	8	8	8	8
	(A)ラウリルジメチルアミンオキシド	-	0.3	0.6	0.9
	(A)ステアリルジメチルアミンオキシド	-	-	-	-
	N,N,N',N'-テトラキス(2-ヒドロキシプロピル)エチレンジアミン	-	-	-	-
	(C3)ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン	0.05	0.05	0.05	0.05
	(G)塩化ナトリウム	0.5	0.5	0.5	0.5
	(H)フェノキシエタノール	0.2	0.2	0.2	0.2
	(I)クエン酸	0.01	0.01	0.01	0.01
	(H)クエン酸ナトリウム	0.09	0.09	0.09	0.09
	(H)EDTA-2Na・2H ₂ O	0.02	0.02	0.02	0.02
	(D)イオン交換水	残余	残余	残余	残余
合計		100	100	100	100
評価	ティント化粧料に対する洗浄性	D	C	B	A

[0141] [表2]

試験例		5	6	7	8
油相	(B)ジメチコン	24	24	24	24
	(B)イソドデカン	8	8	8	8
水相	(E)エタノール	8	3	3	3
	(F)1,3 ブチレングリコール	8	8	8	8
	(A)ラウリルジメチルアミンオキシド	-	-	-	-
	(A)ステアリルジメチルアミンオキシド	0.3	0.6	0.9	-
	N,N,N',N'-テトラキス(2-ヒドロキシプロピル)エチレンジアミン	-	-	-	1
	(C3)ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン	0.05	0.05	0.05	0.05
	(G)塩化ナトリウム	0.5	0.5	0.5	0.5
	(H)フェノキシエタノール	0.2	0.2	0.2	0.2
	(I)クエン酸	0.01	0.01	0.01	0.01
	(H)クエン酸ナトリウム	0.09	0.09	0.09	0.09
	(H)EDTA-2Na・2H ₂ O	0.02	0.02	0.02	0.02
	(D)イオン交換水	残余	残余	残余	残余
合計		100	100	100	100
評価	ティント化粧料に対する洗浄性	B	B	A	C

[0142] 本発明の洗浄剤組成物は、上記実施形態及び実施例に基づいて説明されているが、上記実施形態及び実施例に限定されることなく、本発明の範囲内において、かつ本発明の基本的技術思想に基づいて、各開示要素（請求の範囲、明細書及び図面に記載の要素を含む）に対し種々の変形、変更及び改良を

含むことができる。また、本発明の請求の範囲の範囲内において、各開示要素の多様な組み合わせ・置換ないし選択が可能である。

[0143] 本発明のさらなる課題、目的及び形態（変更形態含む）は、請求の範囲を含む本発明の全開示事項からも明らかにされる。

[0144] 本書に記載した数値範囲については、別段の記載のない場合であっても、当該範囲内に含まれる任意の数値ないし範囲が本書に具体的に記載されているものと解釈されるべきである。

[0145] 上記実施形態の一部又は全部は、以下の付記のようにも記載されうるが、以下の記載には限定されない。各付記は、特許請求の範囲に記載の各請求項と組み合わせることもできる。

[付記 1]

トリアルキルアミンオキシドを含有する洗浄剤組成物を用いて、皮膚から染料を落とす洗浄方法。

[付記 2]

化 1 に示されるトリアルキルアミンオキシドを含有する洗浄剤組成物を用いる洗浄方法。

[付記 3]

前記洗浄剤組成物をリーブオンタイプとして使用する洗浄方法。

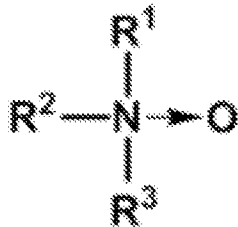
産業上の利用可能性

[0146] 本開示の洗浄剤組成物は、肌の洗浄に好適に用いることができる。特に、本開示の組成物は、肌上の化粧料を落とすための洗浄に好適に用いることができる。

請求の範囲

[請求項1] 皮膚から染料を落とすための染料用洗浄剤組成物であって、
化1に示されるトリアルキルアミノキシドを含有する、洗浄剤組成物。

[化1]



(化1に示す化学式において、 R^1 、 R^2 及び R^3 のうち、いずれか2つは炭素数1～4のアルキル基であり、いずれか1つは炭素数12～21のアルキル基である。)

[請求項2] 前記染料は酸性染料である、請求項1に記載の洗浄剤組成物。

[請求項3] 前記トリアルキルアミノキシドの含有率は前記組成物の質量に対して0.2質量%～4質量%である、請求項1又は2に記載の洗浄剤組成物。

[請求項4] 油相及び水相を有し、
前記油相と前記水相とが静置状態において主として乳化していない、請求項1～3のいずれか一項に記載の洗浄剤組成物。

[請求項5] 前記油相の含有率は前記組成物の質量に対して20質量%～80質量%であり、

前記水相の含有率は前記組成物の質量に対して20質量%～80質量%である、請求項4に記載の洗浄剤組成物。

[請求項6] 前記水相のpHが4～8である、請求項4又は5に記載の洗浄剤組成物。

[請求項7] 界面活性剤の含有率が前記組成物の質量に対して0.2質量%以下である、請求項1～6のいずれか一項に記載の洗浄剤組成物。

[請求項8] アルキルベタイン型界面活性剤をさらに含有する、請求項1～7の

いずれか一項に記載の洗浄剤組成物。

[請求項9] 前記組成物の質量に対して1質量%～20質量%の水溶性アルコールをさらに含有する、請求項1～8のいずれか一項に記載の洗浄剤組成物。

[請求項10] 前記組成物の質量に対して15質量%～50質量%の揮発性油性成分をさらに含有する、請求項1～9のいずれか一項に記載の洗浄剤組成物。

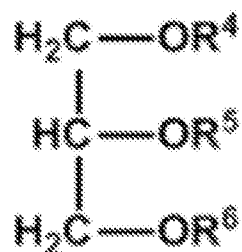
[請求項11] 前記揮発性油性成分は、炭化水素油、エステル油、及びシリコン油から選択される少なくとも1つである、請求項10に記載の洗浄剤組成物。

[請求項12] 前記組成物の質量に対して0.1質量%～5質量%の塩をさらに含有する、請求項1～11のいずれか一項に記載の洗浄剤組成物。

[請求項13] 前記組成物の質量に対して0.05質量%～5質量%のポリオール誘導体を含有し、

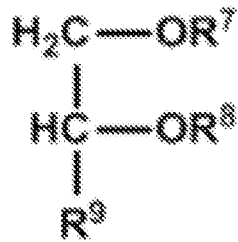
前記ポリオール誘導体は、化2に示すグリセリン誘導体及び化3に示すグリコール誘導体のうちの少なくとも一方である、請求項1～12のいずれか一項に記載の洗浄剤組成物。

[化2]



(化2に示す化学式において、 R^4 、 R^5 及び R^6 のうち、いずれか1つは炭素数4～15のアルキル基、アルケニル基又はアシル基であり、いずれか2つは水素原子である。)

[化3]



(化3に示す化学式において、 R^7 及び R^8 のうち、一方は炭素数10～20のアルキル基、アルケニル基又はアシル基であり、他方は水素原子であり、 R^9 は炭素数1～4のアルキル基、アルケニル基、アシル基又は水素原子である。)

[請求項14] 前記グリセリン誘導体がエチルヘキシルグリセリン及びヘキシルグリセリンのうちの少なくとも一方を含む、請求項13に記載の洗浄剤組成物。

[請求項15] 前記グリコール誘導体がラウリン酸プロピレングリコール、ステアリン酸プロピレングリコール、及びイソステアリン酸プロピレングリコールのうちの少なくとも1つを含む、請求項13又は14に記載の洗浄剤組成物。

[請求項16] 化粧品用洗浄剤組成物である、請求項1～15のいずれか一項に記載の洗浄剤組成物。

[請求項17] リーブオンタイプである、請求項1～16のいずれか一項に記載の洗浄剤組成物。

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2019/043086

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

A61Q 19/10(2006.01)i; C11D 1/75(2006.01)i; C11D 1/90(2006.01)i; C11D 3/20(2006.01)i; A61K 8/41(2006.01)i

FI: A61K8/41; C11D1/90; C11D3/20; A61Q19/10; C11D1/75

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A61Q19/10; C11D1/75; C11D1/90; C11D3/20; A61K8/41

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Published examined utility model applications of Japan	1922-1996
Published unexamined utility model applications of Japan	1971-2020
Registered utility model specifications of Japan	1996-2020
Published registered utility model applications of Japan	1994-2020

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

JSTPlus/JST7580 (JDreamIII); Mintel GNPD

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 2018-513250 A (DOW CORNING CORPORATION) 24.05.2018 (2018-05-24) claim 1, paragraphs [0063], [0079]-[0080], [0082], [0092]-[0095], [0105], [0164]-[0165], [0201]-[0202]	1, 3, 7-14, 16-17
A		2, 4-6, 15
A	JP 2016-121079 A (NIPPON MENA ADE KESHOHIN KK) 07.07.2016 (2016-07-07) claim 1, paragraph [0001]	2
A	JP 2017-066250 A (HOYU CO., LTD.) 06.04.2017 (2017-04-06) claim 1, paragraph [0001]	2
A	JP 2006-225266 A (SHISEIDO CO., LTD.) 31.08.2006 (2006-08-31) claim 1, paragraph [0001]	2
A	JP 2007-177128 A (LION CORP.) 12.07.2007 (2007-07-12) paragraphs [0007], [0017], [0024], [0026]-[0027]	4-6, 15

☐ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☒ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"I" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
16 January 2020 (16.01.2020)

Date of mailing of the international search report
28 January 2020 (28.01.2020)

Name and mailing address of the ISA/
Japan Patent Office
3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku,
Tokyo 100-8915, Japan

Authorized officer

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

Information on patent family members

International application No.

PCT/JP2019/043086

Patent Documents referred in the Report	Publication Date	Patent Family	Publication Date
JP 2018-513250 A	24 May 2018	US 2018/0078467 A1 paragraphs [0079], [0095]-[0096], [0098], [0108]- [0111], [0120], [0190], [0230] WO 2016/164296 A1 EP 3280771 A1 KR 10-2017-0134691 A CN 107690329 A (Family: none)	
JP 2016-121079 A	07 Jul. 2016	(Family: none)	
JP 2017-066250 A	06 Apr. 2017	(Family: none)	
JP 2006-225266 A	31 Aug. 2006	(Family: none)	
JP 2007-177128 A	12 Jul. 2007	(Family: none)	

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC）） A61Q 19/10(2006.01)i; C11D 1/75(2006.01)i; C11D 1/90(2006.01)i; C11D 3/20(2006.01)i; A61K 8/41(2006.01)i FI: A61K8/41; C11D1/90; C11D3/20; A61Q19/10; C11D1/75										
B. 調査を行った分野										
調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC）） A61Q19/10; C11D1/75; C11D1/90; C11D3/20; A61K8/41										
最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの <table border="0"> <tr> <td>日本国実用新案公報</td> <td>1922-1996年</td> </tr> <tr> <td>日本国公開実用新案公報</td> <td>1971-2020年</td> </tr> <tr> <td>日本国実用新案登録公報</td> <td>1996-2020年</td> </tr> <tr> <td>日本国登録実用新案公報</td> <td>1994-2020年</td> </tr> </table>			日本国実用新案公報	1922-1996年	日本国公開実用新案公報	1971-2020年	日本国実用新案登録公報	1996-2020年	日本国登録実用新案公報	1994-2020年
日本国実用新案公報	1922-1996年									
日本国公開実用新案公報	1971-2020年									
日本国実用新案登録公報	1996-2020年									
日本国登録実用新案公報	1994-2020年									
国際調査で利用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語） JSTPlus/JST7580 (JDreamIII); Mintel GNPD										
C. 関連すると認められる文献										
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号								
X	JP 2018-513250 A (ダウ シリコンズ コーポレーション) 24.05.2018 (2018-05-24) [請求項1]、[0063]、[0079]－[0080]、[0082]、[0092]－[0095]、[0105]、 [0164]－[0165]、[0201]－[0202]	1, 3, 7-14, 16-17								
A		2, 4-6, 15								
A	JP 2016-121079 A (日本メナード化粧品株式会社) 07.07.2016 (2016-07-07) [請求項1]、[0001]	2								
A	JP 2017-066250 A (ホーユー株式会社) 06.04.2017 (2017-04-06) [請求項1]、[0001]	2								
A	JP 2006-225266 A (株式会社資生堂) 31.08.2006 (2006-08-31) [請求項1]、[0001]	2								
A	JP 2007-177128 A (ライオン株式会社) 12.07.2007 (2007-07-12) [0007]、[0017]、[0024]、[0026]－[0027]	4-6, 15								
☐ C欄の続きにも文献が列挙されている。 ☒ パテントファミリーに関する別紙を参照。										
* 引用文献のカテゴリー “A” 特に関連のある文献ではなく、一般的な技術水準を示すもの “E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの “L” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す） “O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献 “P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献 “T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの “X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの “Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの “&” 同一パテントファミリー文献										
国際調査を完了した日 16.01.2020		国際調査報告の発送日 28.01.2020								
名称及びあて先 日本国特許庁(ISA/JP) 〒100-8915 日本国 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号		権限のある職員（特許庁審査官） 岡田 三恵 4D 3768 電話番号 03-3581-1101 内線 3421								

国際調査報告
 パテントファミリーに関する情報

国際出願番号

PCT/JP2019/043086

引用文献			公表日	パテントファミリー文献	公表日
JP	2018-513250	A	24.05.2018	US 2018/0078467 A1 [0079], [0095]-[0096], [0098], [0108]-[0111], [0120], [0190], [0230] WO 2016/164296 A1 EP 3280771 A1 KR 10-2017-0134691 A CN 107690329 A	
JP	2016-121079	A	07.07.2016	(ファミリーなし)	
JP	2017-066250	A	06.04.2017	(ファミリーなし)	
JP	2006-225266	A	31.08.2006	(ファミリーなし)	
JP	2007-177128	A	12.07.2007	(ファミリーなし)	